

教 育 研 究 業 績 書

2019年5月1日

氏名 熊谷正秀 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド			
近代東アジア史、歴史教育・伝統文化教育	「我が国の歴史」			
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項	年 月 日	概 要		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法の実践例 1.日韓歴史論争のための基本的前提確立への試み 2.平成16年度高校生心のサポートシステム「学校不適応対応実践」年間報告書作成 	1993年度後期 2005年3月	高麗大学校国際大学院での「日韓関係論」の講義と院生との討論を通じ、歴史論争の方法論確立を試みた。県立伊川谷高校における教職員による「教育相談」の立ち上げと学校不適応生徒への取り組みを中心として行い、その実践経緯と成果を報告した。		
<ul style="list-style-type: none"> ・作成した教科書、教材 1.東京書籍「世界史B準拠問題集」 2.兵庫県教育委員会編『日本の文化』Ⅱ.テーマ指導例28.「日本の中の多様な文化～国際化を好む日本人～」 	2006年4月 2007年3月	アジア史関連の問題を担当した。日本の歩みの中から諸外国との交流を捉えることで、いかに日本文化と日本人が形成されてきたかを気づかせ、日本が自らを相対化させる能力を備えてきた点を理解させたいと、これからの多文化理解教育を考えさせる内容とした。		
<ul style="list-style-type: none"> ・実務の経験を有する者についての特記事項 平成19年度教育課題研修指導者海外派遣プログラム「伝統・文化の教育」スウェーデンに参加し、編集責任者として「報告書」を作成。 	2008年3月	スウェーデンにおける「伝統・文化の教育」の現状調査のためストックホルムの市庁・各学校を訪れ、これらをまとめて提言を行った。		
<ul style="list-style-type: none"> ・その他 				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事 項	年 月 日	概 要		
<ul style="list-style-type: none"> ・資格、免許 高等学校教諭二級普通免許状（社会） 高等学校教諭一級普通免許状（社会） 剣道五段 	昭和60年3月31日 昭和63年1月14日 平成18年9月17日	昭五九高二普第2515号 昭六二高一普第181号		
<ul style="list-style-type: none"> ・特許等 				
<ul style="list-style-type: none"> ・実務の経験を有する者についての特記事項 				
<ul style="list-style-type: none"> ・その他 				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
<ul style="list-style-type: none"> 〔著書〕 『日本から見た朝鮮の歴史―日朝関係全史―』 『韓国百科』 	単共	2004年10月 1996年7月	展転社 大修館書店	日本と朝鮮との関係史(古代から現在の問題を含む)を従来の見方及び韓国側の主張を検証しつつあらわした。1部では韓国政治部門を担当し、韓国の建国以来の内政と外交を概説、2部では現代韓国の様子を日本と比較して紹介した。
<ul style="list-style-type: none"> 〔論文〕等 「学校剣道で教えるべきこと」 「韓流ブームの日本」 「阪神大水害とある機関士」 「日本人拉致問題を教えるために - 甲子園短大実践報告 - 」 「あの戦争と日本にとって最も大切な存在」 	単 単 単 単 単	2011年 2011年 2012年 2016年 2017年	兵庫県教育再生協議会編『教育再生兵庫』第3号掲載 『アイデンティティ』53号 日本教育文化研究所『教育創造』82号掲載。 甲子園大学紀要、43、35-47 兵庫県教育・文化研究所紀要1	H24年度から実施される中学校保健体育科での武道必修化に向けて、指導者として理解しておかなければならない点と、武道の中で剣道の重要性を指摘した。韓流ブームと韓国の対日意識について。こころ温まる話として、昭和13年の阪神大水害時の機関士の話を紹介した。日本人拉致問題を解説し、学生の反応やアンケート結果をまとめた。大東亜戦争に於ける日本軍の戦いぶりや占領下の日本の在り様との関係、並びに日本における天皇の存在意義を述べた。

「配慮すればするほど悪くなる日韓関係」	単	2018年	兵庫県教育・文化研究所紀要2	これまで日韓関係の進展のために、日本側の配慮が多々あったが、歴史事実乃至はその解釈について同様な配慮をすると深刻な問題になる点を指摘した。
「中国吉林省永吉県の朝鮮族」	単	2019年	兵庫県教育・文化研究所紀要3	吉林省永吉県の朝鮮族の歴史。韓国高麗大学校亜細亜問題研究所『亜細亜研究』第35巻第2号掲載分を加筆修正し日本語に訳した。

〔学会発表〕				
「変動する世界情勢と国際理解教育」	単	2016年	全国社会科教育学会（兵庫教育大学）	ポスト冷戦時代の終焉を迎えた今日、グローバル化とは何かを問い、日本が発信すべきものを提案する。
〔寄稿・書評等〕 「竹島の日を全国民で」 「日韓がタブーにする半島の歴史」（書評）	単 単	2012年 2012年	『島根日日新聞』9/21朝刊 日本教育文化研究所『教育創造』83号掲載。	竹島問題は島根県だけの問題ではないと主張。古代日朝関係史を再考する必要がある。
〔講演・発表〕				
「朝鮮半島の真実」	単	2012年	国際文化研究会	韓国の国定歴史教科書を通してその実態を明らかにした。
「採択教科書分析する」	単	2012年	日本会議東播磨支部例会	東京書籍の中学歴史教科書の内容を分析した。朝鮮半島情勢の現状と対日意識を紹介。
「中学歴史教科書の問題点」	単	2012年	自民党芦屋支部政策勉強会	中学歴史教科書の問題点を指摘し、どう記述すべきかをまとめた。
「竹島問題について」	単	2012年	全日本教職員連盟中部・近畿ブロック会議	竹島問題とは何かを解説。
「韓国の対日意識といかに対峙するか」	単	2012年	日本会議芦屋・西宮支部勉強会	最近の韓国による対日攻勢にどう対応すべきかを主張した。
「韓国における対日意識」	単	2012年	日本の歴史文化研究会	同上
「韓国との付き合い方」	単	2013年	日本会議阪神北支部勉強会	同上
「現代朝鮮半島事情」	単	2013年	靖国神社崇敬奉賛会青年部関西支部第7回定期大会 日本会議淡路支部勉強会	韓国の対日優越意識と嫉妬について紹介。
「歴史から見た日韓関係」	単	2013年		日韓の歴史の変遷の違いにより、両国民の意識におおきな差ができたことを主張。
「朝鮮戦争と日本」	単	2013年	日本の歴史文化研究会	朝鮮戦争の意義と日本に与えた影響について。
「国防について」	単	2013年	兵庫県神社庁阪神摂津地区現任神職研修会	最近の中韓の対日攻勢の意味と、日本人による日本の名誉を守る意識と行動が国防の土台となることを主張。
「現代韓国を知る」	単	2014年	甲子園大学市民講座	歴史から見た日韓・日中・中韓関係と、現代韓国の実情を概説。
「日本の底力を引き出す教育を」	共	2014年	教育再生タウンミーティング in 兵庫	パネリストとして、兵庫県の教育の問題、これからの伝統・文化教育について提言。
「隣国といかに対峙するか」	単	2014年	日本会議兵庫阪神北支部総会	先祖返りしつつある東アジア情勢を読み解く。
「日韓併合前の朝鮮」	単	2014年	日本の歴史文化研究会	李朝時代に形成された朝鮮社会に根を張る朝鮮の為政者の行動様式と対日意識について考える。
「どうなる？朝鮮半島と日本」	単	2014年	甲子園大学市民講座	今後の日韓、日朝、中韓、中朝関係を考える。
「今、世界に伝えたい日本～文化融合の地より～」		2014年	教育シンポジウム兵庫	パネリストとして、「惻隠の情」の実践と継承・発信の大切さを訴え、小学校低学年から剣道を必須化することを提言。
「国際社会で発信すべき日本の精神－日本人のアイデンティティーを取り戻せ－」	単	2015年	西宮青年会議所5月例会	日本の歴史を通じて日本人の精神性が培われたことを示し、「先人への感謝」、「我が国に対する誇り」、「子孫への伝達」、の必要性を訴えた。グローバル社会に対応すべき確固たる歴史認識の必要性を説く。
「変動する世界情勢と国際理解教育」	単	2015年	全日本教職員連盟中部・近畿ブロック会議	グローバルとは、国際理解教育とは何かを問い、日本が発信すべきことを提案。
「日清戦争と朝鮮」	単	2016年	日本の歴史文化研究会	日清戦争に至る日朝、清朝、日清関係を読み解いた。
「日露戦争と朝鮮」	単	2016年	日本の歴史文化研究会	列強のアジア関与の中で、日露戦争に至る日韓、韓露関係をたどった。
「これからの歴史教育を話し合おう」	単	2017年	日本の歴史文化研究会シンポジウム（パネリスト）	四人のパネリストが、それぞれの歴史教育の経験をベースに、これからの中学・高校の歴史教育について提言した。
「世界の中の日本文明」	単	2019年	甲子園大学市民講座	一国で一文明を築いてきた日本独自の歩みを、近隣諸国との関係を踏まえて講義した。
〔高大連携事業〕等				
「世界の中の日本文明」	単	2017年	御影高校総合人文コース	同上